

ホースマンとしてキャリアアップできた米国研修

ノーザンファーム 天栄 佐藤 喜良

私は、ノーザンファーム天栄で競走馬の育成・調教を行っています。現場で馬具の担当を行っていることもあり、以前から世界ではどんな馬具を使っているのか、流通事情はどのようなのか、我が国で外厩として取り入れるものはないかといったことが気になっていました。

そこで、これらの点をこの研修でのテーマとして、見聞したことについて報告します。

【アメリカ競馬の歴史・競馬場】

アメリカの競馬はダートレースがメインです。

見学したのは、キーンランド競馬場と、サンタアニタ競馬場でしたが、2つの競馬場は、平坦なダートが手前に広く長く整備されており、内側が芝コースでした。一周ほぼ1,700m、直線は300mで全て左回りです。観客がレース全体を見渡せられるように小回りなコースが作られ、運営側が管理しやすいダートをメインにしているのだと感じられました。日本のダートと違って、見た目は全体に茶色で、粘着性のある山砂を使用しているようです。

サンタアニタ競馬場は、2008年のブリーダーズカップからオールウェザーが使用されましたが、レースの流れ、展開が前半からジョッキーが動かないスローペースで、極端に上り3ハロン勝負の展開になり続けたことから、最近ではダートに戻す競馬場が増えたそうです。

私は、最近のブリーダーズカップを含めアメリカの重賞レースは、先行・逃げ切りの前残りの競馬が多いと感じていました。



ブリーダーズカップ 国歌斉唱

ブリーダーズカップが行われたサンタアニタ競馬場の中央には、オーロラビジョン、オッズ表示があり、スタンド側からはどの角度からもよく見えます。

G1のスタート前には、ゴール前のダートコースいっぱいにはアメリカの国

旗を広げて、その両端を 60 人の演奏隊が旗を上下になびかせて行う、国歌斉唱が印象的でした。

その他、私たちが観戦した席の入場料が高額なのには驚かされました。

私たちは 600 ドルの席で観戦したのですが、パドックや周辺にいたお客さんが首から下げている入場プレートも 200 ドル未満を見かけなかったので、おそらく高額なのでしょう。

ハリウッドスターの歌唱やダンスなどのパフォーマンスを取り入れてお客さんを魅了するところや、コース、パドック、装鞍所など、お客さんと馬が身近にいられる環境を見て、アメリカの競馬は、サービス精神旺盛なエンターテイメントだということを随所を感じる事ができました。

実際に、ブリーダーズカップを観戦し、何故、日本馬の参戦が少ないのか、その理由をいろいろと考えてみましたが、わかりませんでした。単純に賞金面のみを見ると、総賞金 500 万ドルのクラシックなど魅力的なレースが多いので、近い将来日本のダート界のトップホースたちもブリーダーズカップにどんどん挑戦してほしいものです。

【アメリカの種馬・生産牧場】

牧場視察では、80 頭以上の種牡馬を見せていただきました。

これまで私の中では、シンボリルドルフ、スペシャルウィーク、ディーピンパクトが種牡馬ベスト 3 でしたが、今回見学したキトゥンズジョイ、タピット、ジャイアンツコーズウェイには衝撃を受けました。



キトゥンズジョイ



アメリカで旬の種牡馬タピット
種付け料 1650 万円 (2014 年)

私の種牡馬ベスト 3 に負けず劣らず、私を魅了しました。芝・ダート適性を問わず、好みの種牡馬でした。

見るからに身のこなしが軽く、筋肉が柔軟で走るのに適しており、飛節の角度がバランスよく、何よりもスピード感を持ったオーラを感じることもできる馬たちでした。

特に、力のいる深いダートなどには適した遺伝子を持っていると感じました。

II 研修者の見聞記

視察に訪れた各牧場は、整備された放牧地と厩舎、種付け場、ウォーキングマシンも屋根がドレスアップされており、細部まで建築物にお金をかけているのがわかるものでした。

日本にあるスタリオンステーションも施設経費がかかっていると思いますが、レキシントンで見たスタリオンの土地の広さ、一年を通して雪が少ないとされている中で青々と育つ、カルシウム、ミネラルが豊富な牧草と、どれを取ってもスケールが違いました。種牡馬たちものんびりと、ストレスなどないような表情で放牧されていました。

アメリカの生産牧場は、莫大な財力で設備投資して、馬主に高い値段で馬を買ってもらおうとアピールしている姿勢を率直に感じました。

【アメリカの馬具】

キーンランド競馬場や、ブリーダーズカップの開催されたサンタアニタ競馬場で、調教と競馬で使用されていた馬具について気づいたことがあります。

それは、ブリンカーやメンコ、シャドーロール、チークピースズ、パシュファイヤーといった馬の視野を狭めたり、聴覚を制限する馬具が頻繁に使われていたことと、強い制御力のあるリングビット、D ハミ、タンビット等のハミの多さです。

ブリンカーは、アメリカで最初に使われたと聞きました。1960年代のアメリカのレースビデオでは、レースでブリンカーを装着した馬がいたようです。

神経過敏な馬が、レース前キョロキョロと余計なところに視点を持って行かれないように、前方を見させて集中させるにはブリンカーは有効です。

また、距離延長のレースを選択した場合、調教でブリンカーを装着してガイガイと集中力を高め、レースでは外すと、息が入りゆったりとしたレースの流れに乗れたり、折り合いが付きやすくなると聞きました。

実際に、私も調教で試してみたいと思います。



キーンランド競馬場 調教の様子

【今後の仕事でいかすこと】

馬主・調教師・会員様等のお客様が馬を見に来た時の対応では、高額な馬を購入して下さったことに対して、感謝する気持ちを今まで以上に持って接していきたいと思いました。

また、アメリカの牧場のように行き届いた厩舎の清掃を行い、馬の手入れ・扱い方はブレーキングやリーディングによる馬の自然な動き、お客様が見やすい曳き方等、食欲に迫及して結果を出していきたいと思います。

馬具については、使用方法やその考え方で、新たな知識を得ることができました。

馬の飼養管理や調教についても、日々の気づきが大事なことを再確認しました。

ノーザンファーム天栄では、海外研修者が研修での成果を厩舎スタッフ、従業員の前で報告する場を設けており、報告について質疑応答が行われ、研修の成果を共有するようにしています。

私も今回のアメリカ研修で、実際に見た施設の様子、聞いた情報、知り合った仲間、感激した事などについて、撮影してきたビデオを使い報告しました。

海外の競馬に興味のある若いスタッフが多いので、サンタアニタ競馬場のパドックやレースの様子はもちろんの事、種牡馬視察で撮影した当牧場で育成している外国産馬の種牡馬が映った時は、より興味深い様子で見えていました。

私も、これまで他のスタッフの報告や質疑応答等などから、自分の仕事を見直すヒントを得ることもあったので、今回アメリカ研修について報告し成果を共有できる時間と場所を作ってもらえたことを嬉しく思いました。

今回の研修に参加することで、またひとつホースマンとしてのキャリアを積むことができました。

最後に、この研修にご尽力されたすべての方々に感謝しお礼申し上げます。